

## 研修報告書 No. 10

所 属：昭和大学藤が丘病院 研修医  
研修先：特定医療法人長生会 大井田病院  
医療法人聖真会 渭南病院  
宿毛市立 沖の島へき地診療所

地域研修先に高知県を選択したのはいくつか理由がありますが、一番の目的は僻地医療の体験でした。沖の島という離島においてどのような医療が行われているのか興味があったのです。常勤の看護師と交代制の医師のもと日々の診療が行われておりました。必要最低限の薬剤は揃っていて、あまり使われないとのことですが採血測定器やレントゲンもあり驚きました。食事に誘っていただいたり、島民の方々とふれあいも体験することができ、僻地ならではの良い思いができました。僻地においても必要な医療は提供されている、医療者側からみても僻地医療ならではの良い面があることを知れて良かったです。

大井田病院、渭南病院における地域研修では地域医療における工夫や問題点を学びました。高知県は県中央部の高知市内に大学病院、医療センターという大規模な病院があり、東西にそれぞれ中規模の県立病院が建てられているといった状況でした。西部に位置する大井田・渭南病院では、西部の県立病院や市内の医療センターとの連携がとられていました。大井田病院では県立病院のカルテを参照することができるシステムや、病院付近の救急車の出動状況を把握するシステムが活用されていました。自分も日々の診療の際他院かかりつけの患者を前にしたときに、他院での検査や治療内容が十分に分からず治療に苦慮することがしばしばあります。頻回に医療連携を行う病院同士で各々のカルテを参照できるシステムは、必要な検査の重複を防げ、継続治療をスムーズに行える良いシステムであると思いました。個人情報保護の面から課題はあると思いますが、地域における医療連携の円滑化をはかる面で工夫されていることを経験できました。渭南病院では日々の診療や訪問診療を通じて、病院は病気を治すだけでは今後の地域医療は破綻してしまう危険があることを学びました。患者を紹介できる医院やクリニックがたくさんある市内と違い、地域では退院後も患者をフォローしていく必要があり、退院後の生活環境の調整を適切に行わなければすぐに入院を繰り返す危険があります。この高齢化社会において、病院は疾患の治療のみではなく、患者の生活の治療にも携わる必要があると知りました。医師や保健師、社会福祉士などの連携の向上が今後地域医療を担っていく上で課題となると感じました。

研修内容においては、普段の研修先である大学病院では診ることに少ないプライマリな疾患を経験することができ勉強になりました。軽症～重症まで多くの患者を診る地域の病院では一人の患者にかけられる時間もより限られています。一通り採血・レントゲンな

どの検査をルーチンですることに慣れてしまっていた自分にとっては、軽症患者を前にしたときの検査の必要性を判断する力が不足していると感じました。問診や身体所見から重症度を判断し、検査の必要性を適切に判断する能力の重要性を再確認することができ、今後成長していかなければいけないことを学びました。

自分は来年度から富山県の病院の循環器内科に進みます。富山県においても地域における高齢化や医師不足の問題があります。高知県における地域医療実習を役立てられるように富山の医師として頑張りたいと思います。自分の専門に関係なく患者を診ておられた地域の先生方を見習い、専門分野以外の領域の知識・経験も軽視することなく意識していきたいです。4週間と短い実習でしたが、今後の医師人生において大きな財産になったように感じられます。関係者の方々には深くお礼申し上げます。